

# インド、4月のインフレ率とカルナタカ州議会選挙速報

情報提供資料 2018年5月16日

・インド中央統計局が発表した4月の消費者物価指数（CPI）上昇率は、前年同月比+4.58%と市場予想をやや上回りました。  
・12日に投票が行われたインド南西部にあるカルナタカ州議会選挙の開票状況は、国政与党であるインド人民党（BJP）が事前予想以上に議席数を伸ばしています。ただし、過半数を超える政党はなく、州政府の組閣の行方が注目されます。

## ▶ インフレ率は予想を上回る

■ 2018年5月14日に発表された4月の消費者物価指数（CPI）の上昇率は、+4.58%（前年同月比、以下同）と市場予想（+4.40%）を上回り、2017年12月の+5.21%をピークに続いていた低下傾向が反転する形となりました。

■ 項目別で見ると、CPIの約46%を占める食料品・飲料は+3.0%と、前月から横ばいとなりました。また、原油価格は上昇傾向が続いていますが、燃料は前月の+5.7%から+5.2%と低下しました。ただし、交通・通信などのその他項目や、住居費が上昇して食料品・燃料を除くコアの上昇率が高まり、全体の上昇率を押し上げました。

■ インド準備銀行（RBI、中央銀行）は、4月5日の金融政策決定会合で政策金利を据え置き、政策スタンスを中立で維持すると同時に、2018/19年度前半のCPI上昇率見通しをそれまでの5.1~5.6%から4.7~5.1%に引き下げています。4月のCPIはこの見通しを下回りましたが、コアCPI上昇率が高まったことで、市場ではインフレへの警戒感が高まりました。

■ CPIの発表後、インドの10年国債利回りは上昇（価格は低下）しました。現在のインド債券市場は、国内要因以上に外部要因によって投資家心理が影響を強く受けやすい状況となっていることから、原油価格や米国金利の動向が注目されます。

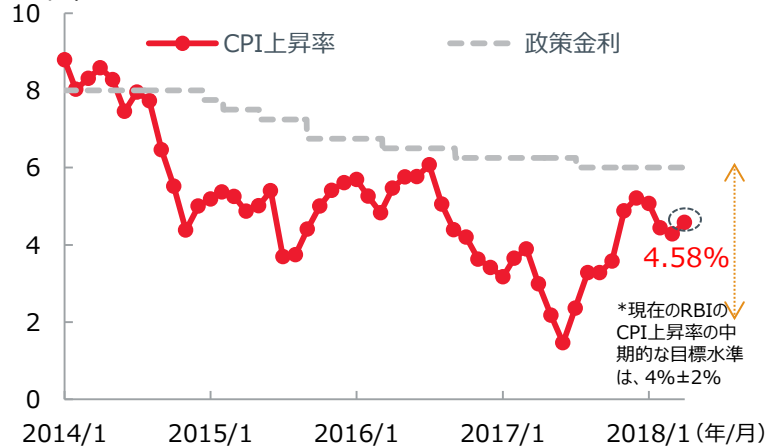
## ▶ カルナタカ州選挙速報～インド人民党が議席数を伸ばすも、過半数獲得には至らず～

■ 来年予定されている下院選挙の前哨戦として、今年行われる地方選挙の動向に注目が集まっています。中でも、人口が多く、急速に発展している州都ベンガルールがあるカルナタカ州は、BJPの躍進が期待されていました。

■ 15日に開票されたカルナタカ州の地方選挙では、224議席のうち222議席が争われ、モディ首相のインド人民党（BJP）が前回2013年の選挙時の40議席から大幅に議席を増やして104議席を獲得し、第一党となりました。

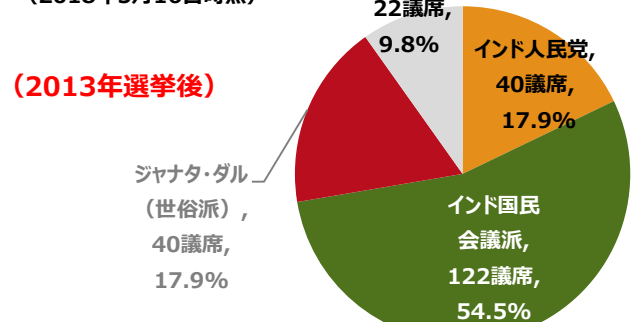
■ 国民会議派は前回の122議席から78議席に大幅に議席数を減らしました。BJPは議席数を伸ばしたものの過半数の獲得に至らなかったことから、国民会議派は37議席を獲得した地方政党のジャナタ・ダル（世俗派）と連合を組んでBJPによる州政府の組閣を阻む動きを示しており、州政府の組閣の行方が注目されます。

【インドの消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）の推移】  
（2014年1月～2018年4月）  
（%）

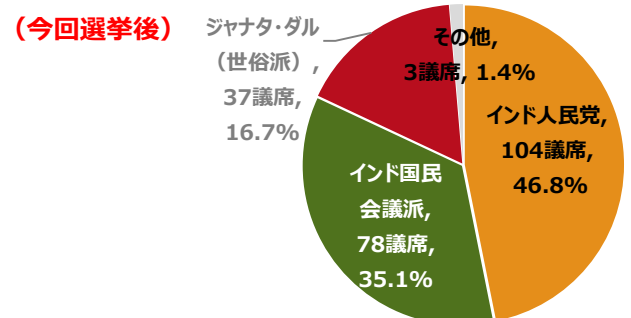


（出所） Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。CPI上昇率は（2014年12月までは旧基準（2010年=100）、2015年1月以降は新基準（2012年=100））による統計。

【カルナタカ州議会の議席数】  
（2018年5月16日時点）



（今回選挙後）



（出所） ELECTION COMMISSION OF INDIAのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。